

帰国生 入試情報

帰国生大学入試受験対策

～志望校合格のためには日本の学習も必要!早めに受験準備を進めよう!

米日教育交流協議会・代表 / 河合塾北米事務所・アドバイザー 丹羽 肇人

帰国生大学入試では、海外の高校での在学年数や卒業の有無、各国の大学入学資格試験合格やスコア(米国ではSATやACTなどのスコア)など、大学ごとに異なった条件を定めています。また、選考方法も国内生の入試とは異なり、秋入学の大学では北米の大学と同様に高校の成績や推薦書、大学入学資格試験の合格やスコアなどの書類審査のみで合否が判定されます。一方、春入学の大学では書類の提出に加え、学科試験が課されるケースが目立ちます。学科試験の科目は大学・学部によって異なりますが、概ね文科系学部では小論文と英語、理科系学部では数学、理科と小論文が課されます。また、多くの大学・学部で面接も行われます。

国内生に準ずる日本語での学力が必要

では、帰国生入試に合格するためには、どのような準備をしておけばよいでしょうか。まず、日本語での学習がとても大切です。学科試験の科目の多くは日本語で出題され日本語で解答します。面接の質疑応答もほとんどが日本語です。入学後の講義やレポート・論文作成、定期テストなども同様です。日本の大学なので当然とも言えます。帰国生入試は9月初めから始まりますので、高校卒業後の準備期間は約2カ月しかありません。海外にいる今から日本語での学習を始めておかないと間に合いません。小論文の対策には時間がかかります。小論文は作文とは異なり、体験や感想だけではなく自分の意見を述べなければなりません。自分の意見を構築するためには豊富な知識が必要です。

小論文で与えられるテーマや課題文、図表の内容は大学や受験する学部によって異なり、最近の時事問題が提示される大学・学部と学部の専門領域に関する問題が提示される大学とがあります。どちらかというと私立大では前者が多く、国公立大では後者が目立ちます。

時事問題をテーマとする小論文作成のためには、社会で起こっているニュースに目を向ける必要があります。また、現代社会のキーワードとなっている憲法改正、グローバル化、経済成長、格差社会、武力紛争、テロリズム、大規模人権侵害、南北格差、

地球環境問題などに関する知識も必要です。

一方で学部の専門領域をテーマとする小論文作成のためには、専門領域に関する書籍や雑誌などを積極的に読むことが必要です。学識者の論文を掲載している新書を読むこともよいですが、志望する専門分野に関係がある内容の書籍を多数読むことをお勧めします。例えば理科系志望者なら科学雑誌、経済系志望者ならば経済誌を読むのもよいでしょう。日本語書籍や雑誌が入手できなければ英語のものを読んでも構いません。まずは知識を増やすことの方が大切です。また、新聞やテレビなどで報道されている学問領域に関連するニュースもキャッチしておきましょう。

そして、知識を得るだけでなく、書籍の記述やニュースに潜む問題点を指摘し、それに対する自分の意見を考えることを習慣づけましょう。それが小論文作成に大切な自分の意見を論ずることのできる力を養うことにつながります。

理科系学部志望者にとっては、数学と理科の学力も必要です。数学や理科は現地校でも学んでいますが、日本の高校の数学や理科の教科書や参考書、問題集に目を通し、そこで使われている日本語の用語や問題の解き方に慣れることが大切です。また、米国の高校では履修していない分野があるかどうかを知っておくことも必要です。

帰国生入試の英語は、TOEFL形式で出題する大学が目立ちますが、中には国内生と同一問題を使用する大学もあります。この場合、日本の大学受験英語＝高校英語を学習せねばなりません。過去の入試問題に目を通し、出題傾向を把握して対策をする必要があります。

現地校の学習も入試対策として必要

一方で、現地の高校の成績(=GPA)はどの程度必要なのでしょうか。確かに米国の大学では合格基準となるGPAの数値が示されている場合があります。ただし、日本の大学の場合にはそのような数値は示されていません。書類審査のみの秋入学の大学の選考では高校の成績が重視されるといえますが、春入学の大学ではあまり合否には大きく影響していません。しかし、高校での成績が悪くてもよいかというところではありません。当然卒業に必要な単位が取得できなければ大学受験資格を失いますし、科目ごとの成績を見た際に良くない成績があれば目立つため、面接でその理由を指摘されたりします。

また、高校での学習は大学での学習の基礎にもなりますし、社会人としての教養にもなりますのでとても大切です。入試においても小論文作成のために必要な知識にもなりますし、日本の大学の入試問題の数学や理科の問題を解くときにも米国の高校で履修した数学や理科の知識が役に立ちます。さらに高校での学習は帰国生入試に必要な英語力の向上にもつながります。帰国生入試では出願の際にSATやACT、TOEFLなどのスコアが必要となる大学もあります。これらのスコアアップのための英語力を上げるためには高校での学習が重要です。多様な科目を英語で学習しているのですから、自然に英語力を上げるのには高校の授業や宿題で使った英語を着実に習得することが効率的です。

志望大学や学部について知ることも重要

最後に、もう一つ大切なことは、志望する大学や学部のことを十分に理解しておくことです。帰国生入試ではほとんどの大学で面接があります。また、出願書類として「志望理由書」を提出させる大学もあります。なぜその大学や学部に入りたいのかという理由を説得力あるものにするため、志望する大学や学部に関する情報収集をしましょう。大学のウェブサイトを開覧すれば、多種多様な情報がキャッチできます。これも海外にいる今からできることの一つです。

このように米国にいるときからすべきことは多数ありますので、帰国が迫ってから慌てることのないように早めに準備を進めるとよいでしょう。

帰国生大学入試 進学講演会

河合塾海外帰国生コースでは、海外で学び日本の大学をめざす方をバックアップするため、帰国生大学入試の進学講演会を実施します。デトロイト地区におきましては、下記の日程で開催します。大学入試の最新情報および合格の秘訣をお伝えいたしますので、是非この機会をご活用ください。講演テーマおよび内容は下記の通りです。

帰国生大学入試の概況と今後の受験対策

- ①帰国生入試の基礎知識
- ②海外在住中の心構え
- ③主な大学の最新入試情報と攻略法
- ④河合塾海外帰国生コースのカリキュラムの特長

*内容は都合により変更になる場合があります。

12月10日(日)

2:00pm - 4:00pm

Sheraton Detroit Novi Hotel

21111 Haggerty Road, Novi, MI 48375

☆参加者には、情報誌『栄冠めざして』抜粋版などの入試資料を進呈!

★参加ご希望の方は、講演会当日、直接会場にお越しください。事前のお申し込み、参加費用は不要です。開場は開始時間の30分前です。

★個別相談をご希望の方は、講演終了後に時間の許す範囲で承ります。

★受験学年以外の中高校生、保護者の方もご参加ください。

★不測の事態により、会場変更や実施を中止する場合は、当日までに、ウェブサイトの「新着情報」にてお知らせします。河合塾のウェブサイト <http://www.kawai-juku.ac.jp/kikoku>

河合塾

海外帰国生コース 北米事務所
E-mail : kikoku@ujeec.org



執筆者のプロフィール

河合塾で十数年間にわたり、大学入試データ分析、大学情報の収集・提供、大学入試情報誌「栄冠めざして」などの編集に携わるとともに、大学受験科クラス担任として多くの塾生を大学合格に導いた。また、全国の高等学校での進学講演も多数行った。一方、米国・英国大学進学や海外サマーセミナーなどの国際教育事業も担当。米国移住後は、CA、NJ、NY、MI州の補習校・学習塾講師を務め、2006年に「米日教育交流協議会(UJEEC)」を設立し、日本での日本語・日本文化体験学習プログラム「サマー・キャンプ in ぎふ」など、国際的な交流活動を実践。また、帰国生入試や帰国後の学校選びのアドバイスも行っており、北米各地で進学講演も行っている。河合塾海外帰国生コース北米事務所アドバイザー、名古屋国際中学校・高等学校アドミッションオフィサー北米地域担当、名古屋商科大学アドミッションオフィサー北米地域担当、デトロイトりんご会補習授業校講師(教務主任兼進路指導担当)

◆米日教育交流協議会(UJEEC) Website: www.ujeec.org